

学校名	府立泉北高等学校	名前	
-----	----------	----	--

1 学校教育目標（めざす生徒像）

- ◆ 高い知性、豊かな人間性、健やかな心身を持ち、将来、世界の様々な分野で活躍できる素質を持った人材。
- ◆ 国際人としてのグローバルな視野を持ちつつ、地域を愛し、地域に積極的に貢献する意欲を持った人材。

2 令和3年度の校内研究の取組み

（1）研究テーマ及び設定理由

①研究テーマ

観点別学習状況評価（以下、観点別評価）に対応できる泉北高校独自の評価基準や授業の変革を行う。

②テーマ設定理由

来年度より始まる観点別評価について、教員が正しい評価基準を持って生徒を評価することができることが求められ、授業の変革をすることで、新たな生徒の可能性を開花させることが必要であったため。

（2）校内研究の取組みについて

①研究の基本的な考え方・全教職員で共通理解したこと（明確化した今年度のポイント）

- （ア）観点別評価を来年度より実施することを念頭に評価基準を考える。
- （イ）内規を変更し、観点別評価に沿った評価基準や成績の判定ができるようになる。
- （ウ）授業自体を工夫し、積極的に思考・判断・表現を取り入れた授業を考える。
- （エ）主体的に学習に取り組む態度を測るために必要なループバックを研究する。

②具体的な取組み

- （ア）有志メンバーを含む総勢24名の観点別評価を考えるプロジェクトチームの発足
 - ・全教科主任・首席・両科長・有志教員を含めたプロジェクトチームを結成し、各フィールドを構成して課題解決を共有した。
 - ・定期的に会議を開催し、各分野において強みのある先生方に実践例を発表してもらった。

- (イ) 教科の枠を越えた様々な授業を見学し共有する研究授業週間
 - ・授業見学週間を設定し、すべての教員が2回以上授業見学を実施した。
 - ・PTメンバーから観点別評価を意識した授業を行ってもらい、見学してもらった。
 - ・見学に際してレポートを配付し、教員の授業内容やスキルではなく、「生徒の授業を受ける態度」について観察してもらい、自分の授業内での生徒の様子と比較してもらった。
 - ・座学の先生には積極的に実技の教科を、実技の先生には積極的に座学の教科を見学してもらった。
- (ウ) インターメディアイト研修・十年研修を活用した研究授業
 - ・2年目の先生の研究授業にルーブリックを活用した研究授業を、十年目研修の先生には思考・判断・表現を意識した研究授業を行ってもらった。
- (エ) 観点別評価について深く知ってもらうための通信を定期的に配付
 - ・「分からない」を減らすために観点別評価をかみ砕いた内容で発行
 - ・4コマ漫画なども作成して、読みやすいものに
 - ・主体的に学習に取り組む態度に対して批判的な先生のために、主体性の高い人物像や社会における優位性、アメリカの大学での評価方法などを紹介した。
- (オ) 教育センターより指導主事を招いての全教員対象パッケージ研修全2回開催
 - ・第1回目では観点別評価の基本的な考え方について講義いただき、質問内容などを精査して、今後の方向性を定めた。
 - ・第2回目では授業見学週間を経て各先生方の見学レポートを踏まえたグループディスカッションを行い、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の各観点についてどう取り組むべきか、何ができて、何ができないか、を討論し、発表してもらった。発表後、指導主事による講評をいただいた。
- (カ) 各教科代表による2学期の成績を観点別評価で試行、報告書作成
 - ・各教科代表者最低1名による2学期の成績を観点別評価で試行・算出してもらい、その後報告書を作成、提出してもらった。
 - ・集計後、まとめて全教員に配付、共有を行った。

③取組みの検証方法

- ・教員のアンケート、報告書における感想の変容
- ・観点別評価における試行を行った授業を受講する生徒の態度の変容

3 取組みの検証

(1) 校内研究の成果

- (ア) 有志メンバーを含む総勢24名の観点別評価を考えるプロジェクトチームの発足
 - ・各教科のみならず、全体の1/3の教員が関わっていたため、各フィールドの主担者を決定し、分業することができ、各面でスムーズに進んだ。

- (イ) 教科の枠を越えた様々な授業を見学し共有する研究授業週間
 - ・全教員が最低2回の授業見学を行った。
 - ・授業見学レポートについても全員が記入した。
 - ・教科の枠を越えて行ったので、「新たな発見があった」、「自分の科目でもやってみよう」といった肯定的な意見が見られた。
- (ウ) インターメディアイト研修・十年研修を活用した研究授業
 - ・ループリックを精査する上で必要な基盤となるものができた。
 - ・全教科共通型のユニバーサルループリック／各教科・科目において特色のあるスペシャライズドループリックの必要性を共通理解できた。
- (エ) 観点別評価について深く知ってもらうための通信を定期的に配付
 - ・「内容が固くなくて面白い」「次号が楽しみ」という肯定的な意見をいただいた。
- (オ) 教育センターより指導主事を招いての全教員対象パッケージ研修全2回開催
 - ・第1回では「分からないことが分からない」から「何が分からないか分かった」というアンケートでの意見
 - ・第2回では「やっていることや向かっている方向が間違っていないというお墨付きを得られたので、今後進めやすい」というアンケートでの意見
- (カ) 各教科代表による2学期の成績を観点別評価で試行、報告書作成
 - ・5月当初の認識よりもより具体的な内容となった。
 - ・延べ人数800名を超える生徒に対して全学年で試行を行うことができた。

(2) 生徒の変容（授業改善により生徒にどのような育ちが見られるか）

生徒の違う側面を知ることができた。

泉北高校の生徒は主体性を高める素養が高いので、知識・技能の面でもう少し難化できるのでは？

期待値を超える成長を感じた。

生徒とのコミュニケーションが増えた

などの肯定的な意見が多かった。

(3) 教員の変容（授業改善により教員が何を学んだか・どんな感想をもったか）

観点別を意識した授業の組み立て、講義形式だけではない、生徒の主体的な活動や OUTPUT を含んだ活動などを意識して取り入れる先生方が増加した。

一人1台端末を利用し、板書や教材などの時間を効率化し、捻出した時間で生徒に活動をさせる時間に利用している先生が増加した。

知識の移動ではなく、活用させ、考えさせるアプローチをする先生が増加した。

期待値を超える生徒の能力に感動する先生が増加した。

4 今後に向けて

(1) 今年度の課題

- ・本校生徒に合った、泉北高校オリジナルの観点別学習状況評価のシステム化が未完成であること
- ・ユニバーサルルーブリックとスペシャライズドルーブリックの作成、実証、検証、深化
- ・主体的に学習に取り組む態度の「粘り強さ」と「調整力」の差別化と、感動を数字にできるシステムの未構築

(2) 次年度に向けて

- ・実際に走りながら、プロジェクトチームを教育課程委員会に落とし込んでの持続可能な取り組みへの進化
- ・授業見学を含めた、教員同士の情報共有及び切磋琢磨の機会の設定
- ・完成版ではなく、進化していくルーブリックの作成

令和3年度 校内研修年間計画

1 今年度の目標(テーマ・主題)

観点別学習状況評価に対応できる泉北高校独自の評価基準や授業の変革を行う

2 年間予定

月	日	校内研修計画	
		研究推進委員会 等	教職員全体研修会 等
5	1 3	観点別学習状況調査プロジェクトチーム結成	
5	1 7	第1回 PT (メンバー24名参加) 各自の得意分野のフィールドを確認	
5	1 9	教育センターパッケージ研修ヒアリング	
5	2 4	第2回 PT (観点別評価の概要)	
5	3 1	第3回 PT (主体的な態度の育成)	
6	7	第4回 PT (ルーブリック・主体的態度 有志 教員プレゼン)	
		以降、2週間に1回の頻度で PT を行う	
6	2 9		第1回パッケージ研修 取り組みの年間の指標
7	1 0	CAN - TEN 通信 第1号 配布	
8	2 7	CAN - TEN 通信 第2号 配布	
9	6	第5回 PT (教務内規、成績のつけ方、教員授 業見学週間について)	
9	1 3 ～ 1 6		第2回パッケージ研修 (教員授業見学週間) 研究授業・研究協議
9	2 4	CAN - TEN 通信 第3号 (特大号) 配布	

1 0	1 5	第 6 回 PT（教務内規、成績のつけ方、2 学期 期末考査での試行に向けて）	第 3 回研修 シラバス作成・内規変更 等
1 1	2 4	第 7 回 PT（教務内規決定、試行についての詳 細打ち合わせ、試行報告書提出について）	
1 2	2 4	試行報告書の集計及び今後の見通しについて	
1	2 1	第 8 回 PT（試行結果集計配布について、今 後の取り組みの見通しについて）	
2	下旬	第 9 回 PT（来年度に向けて PT の継続的な在 り方について）	

令和4年度 校内研修年間計画

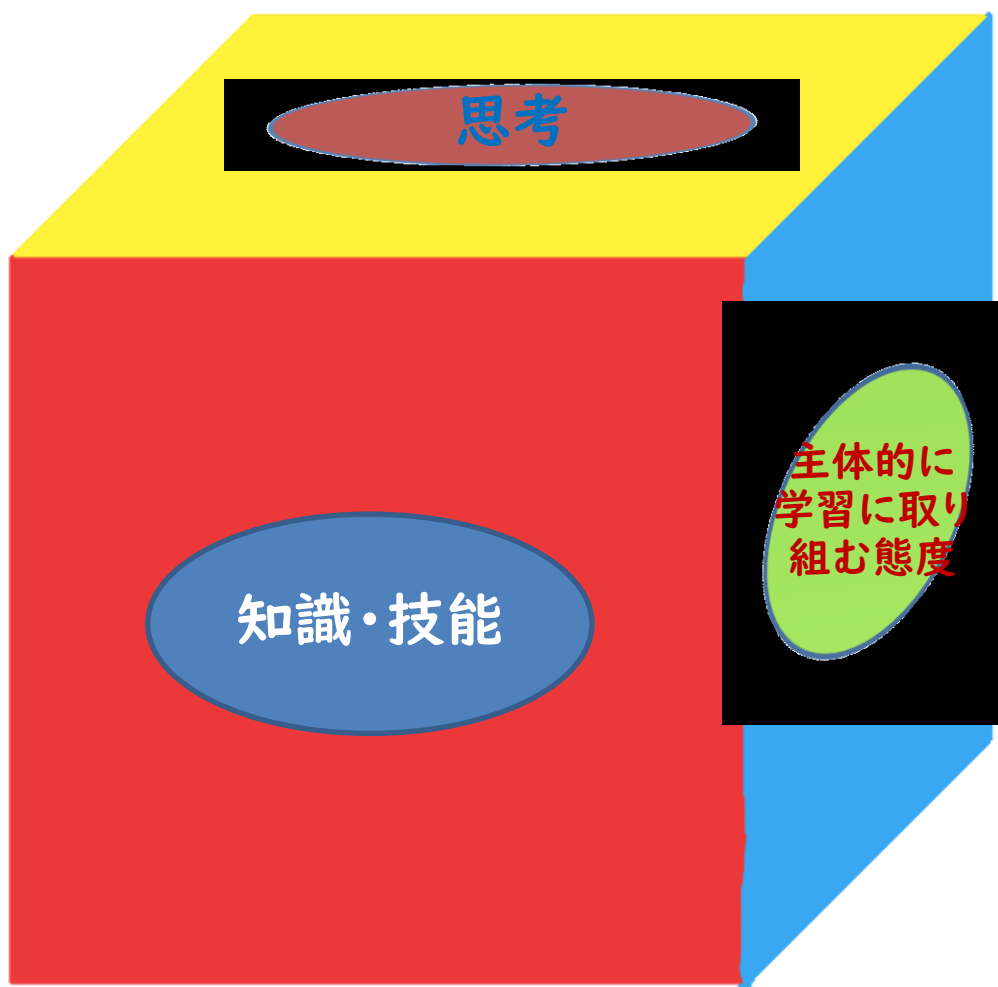
1 令和4年度の目標(テーマ・主題)

<ul style="list-style-type: none"> ・授業見学を含めた、教員同士の情報共有及び切磋琢磨の機会の設定 ・完成版ではなく、進化していくルーブリックの作成 ・生徒や教員の変容を数値化

2 年間予定

月	日	校 内 研 究 計 画	
		研究推進委員会 等	教職員全体研修会 等
4	1	第1回教育課程委員会 引き継ぎ作業	職員会議にて昨年度の報告、 今年度の目標等の共有
	7	第2回教育課程委員会 活動内容を説明・目標共有。昨年度ま での内容を総括。	
5	2 3	第3回教育課程委員会 授業見学について 観点別評価を踏まえた中間考査の実施 について	授業見学週間・見学レポート提出 (生徒・教員アンケート①) 集計・共有
6	1 3	第4回教育課程委員会 授業見学週間総括・今後の流れ	
7	2 0	第5回教育課程委員会 観点別評価を踏まえた成績算出の整合 性の確認	
9	1 9	第6回教育課程委員会 授業見学週間について	職員会議にて観点別評価を踏まえた 成績算出の整合性の確認 (生徒・教員アンケート③) 授業見学週間→研究協議
	2 3	2学期の成績算出に向けて	
1 1	2 1	2学期期末成績に向けて 内規について再確認・アンケート集約	(生徒・教員アンケート④) (生徒・教員アンケート⑤)
2	6	最終確認等 来年度に向けて	

泉北ルーブリックキューブ



知識・技能

思考

判断

表現

主体性(粘り強さ)

主体性(調整力)

各観点の6面に対して、ユニバーサルに活用できそうなルーブリックを載せています。用途に応じてご活用ください。

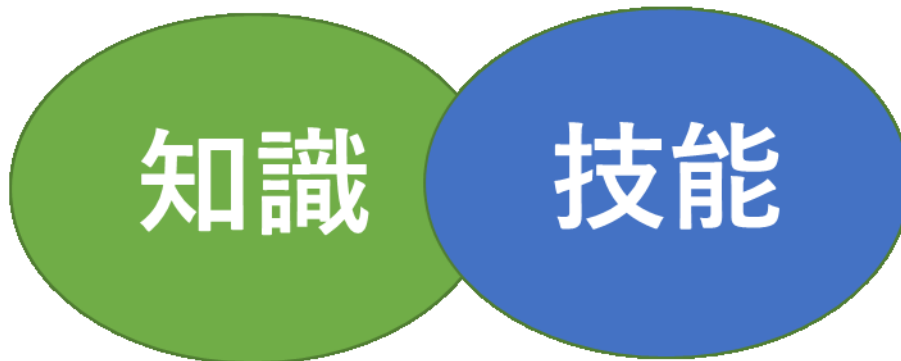
また、こんなのもあるよ、こんなのを入れて、というアイデアも大募集です。

インスピレーションを感じた先生方は忘れる前に共有をお願いします！



知識・技能を活用
する

- A 定期考査及び小テスト等で得た知識に関する発問に対して80%~100%の割合で正答できている。
- B 定期考査及び小テスト等で得た知識に関する発問に対して50%~79%の割合で正答できている。
- C 定期考査及び小テスト等で得た知識に関する発問に対して49%以下の割合で正答できている。



- A 授業において、獲得した技能を80%~100%の割合でパフォーマンスできている。
- B 授業において、獲得した技能を50%~79%の割合でパフォーマンスできている。
- C 授業において、獲得した技能を49%以下の割合でパフォーマンスできている。



知識・技能を習得
する

コメント：



思考して問い続ける

思考

- A: 課題に対して、自分の意見のみに留まらず、他者の意見や専門的な見識をデータを用いて思考できている。
- B: 課題に対して、自分の意見を述べているが、根拠となるデータに乏しい。
- C: 課題に対して分量、内容共にあまり根拠がない。提出期限に遅れる。

- A: 課題を理解し、既習の知識や技能を踏まえた上で自分なりの解釈ができている。
- B: 課題を理解し、既習の知識や技能をそのまま使用している。
- C: 課題を理解していない。



知識や技能を概念化する



互いの考えを比較する

コメント：



自分の思いや考え
と結び付ける



自分の考えを形成
する

判断

- A: 課題に対して、自分の論理を構築するために ふさわしい情報を多方面から選択できている。
- B: 課題に対して、自分の論理を構築するためにふさわしい情報がある程度選択できている。
- C: 課題に対して自分の論理を構築するためにふさわしくない情報が選択されている。

- A: 課題に対して、教科を横断した考えを展開し、獲得した知識・技能を実践的に活用できている。
- B: 課題に対して、教科の中の範囲で判断し、獲得した知識・技能を応用できていない。
- C: 課題に対して、基礎的な知識・技能のみで判断し、正しい判断に至っていない。



先哲の考え方を手
掛かりとする



多様な情報を収集
する

コメント：



新たなものを創り
上げる



協働して課題解決
する

表現

- A: 自分の論理を他者の意見やデータも取り入れながら、聞き手に分かりやすいように、複数の手段を使って表現できた。
- B: 自分の論理を聞き手に分かりやすいように表現できた。
- C: 自分の論理を表現する上で必要な要素が足りなかった。

- A: 質問に対して全て自信を持って即答することができた。
- B: 質問に対して一部答えることができた。
- C: 質問に対して答えることができなかった。

- A: 求めている内容を上回るパフォーマンスであった。
- B: 求めている内容を全て満たしたパフォーマンスであった。
- C: 求めている内容をいくつか満たしたパフォーマンスであった。



多様な手段で説明
する



思考を表現に置き
換える

コメント：



共に考えを創り上げる



粘り強く取り組む

主体的に学習に
取り組む態度

粘り強さ

- A: 前回の結果における課題を分析し、継続して努力することで、より良い結果を導き出した。(検査点が伸びた。反省点を分析したなど)
- B: 前回の結果よりも良い結果を導き出した。
- C: 前回の結果よりも悪くなった。

- A: 検査点の目標点、予想点、実際に取得した点数との誤差が5点以内だった。
- B: 検査点の目標点、予想点、実際に取得した点数との誤差が10点以内だった。
- C: 検査点の目標点、予想点、実際に取得した点数との誤差が15点以上だった。



見通しを持つ

コメント：



自分と結び付ける



興味や関心を高め
る

主体的に学習に
取り組む態度

調整力

- A: 単元内容に対して興味関心を持ち、好奇心を持って、楽しく取り組むことができた。
B: 単元内容に対して真面目に取り組むことができた。
C: 単元内容に対してあまり取り組むことができなかった。

- A: 前回の結果を振り返り、改善点を正しく分析し、効果的に実践し、より良い結果を導き出した。
B: 前回の結果を振り返り、改善点を正しく分析できた。
C: 前回の結果を振り返ることができた。



振り返って次へつ
なげる

コメント：